



**サウジアラビア：イエメンへの軍事介入に対する国際社会の反応**

3月26日未明から始まったサウジアラビア軍を中心とするイエメン空爆「決意の嵐 (Decisive Storm)」作戦は、多くのアラブ諸国からの支持を得た一方、イラン、シリアなどから強い反対を受けている。主要国の軍事作戦への対応ぶりは下表のとおり。

表：主要国の軍事作戦への対応

軍事作戦への参加及び参加意思表明	サウジ(兵士15万人、戦闘機100機、海軍部隊)、UAE(戦闘機30機)、クウェイト(戦闘機15機)、バハレーン(戦闘機15機)、カタール(戦闘機10機)、モロッコ(戦闘機6機)、ヨルダン(戦闘機6機)、スーダン(戦闘機3機)、エジプト(軍艦の派遣、陸上部隊派遣の用意)、パキスタン(軍艦の派遣、陸上部隊派遣の用意)
間接支援	米国(兵站・インテリジェンス支援)
支持	トルコ、英、仏、アラブ連盟
懸念の表明	EU、ロシア、中国
反対	イラン、シリア、イラク

出典：『Al-Arabiya』紙など各種報道より筆者作成

評価

サウジアラビアによるイエメンへの軍事介入に関して特筆すべきことは、アラブ諸国を始め多くの国からの支持を得ていることである。10カ国もの国が単なる支持の表明ではなく部隊の派遣に踏み切ったことは、サウジアラビアにとって大きな外交上の成果であり、目立った反論はイランを始めとする一部の国からしかない。これは、シリア・イラクにおける「イスラーム国」掃討作戦や、リビア情勢への各国の対応と著しく異なる点である。ハーディー大統領の正統性を認めている欧米諸国もサウジの行動を支持しており、今後国際社会において軍事作戦が問題視される可能性は低いだらう。

26日夜、サウジ軍報道官は、空爆によりフーシー派の防空能力を破壊することに成功し作戦の第一段階は達成されたと述べた。サウジアラビアの軍事作戦上の最終的な目標は不明であるが、地上戦の可能性にも言及しており、今後、紛争は更に拡大する恐れがある。フーシー派を支援していると思われるイランの対応が焦点になるが、地続きで国境を接するイラク・シリアと比べると、空路・海路以外のアクセスを持っていないイエメンに直接部隊を送り込むような可能性は低く、また、サウジ側も飛行禁止空域の設定や艦船の派遣などによってそれを妨げる構えを見せている。

(村上研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL：<http://www.meij.or.jp/>